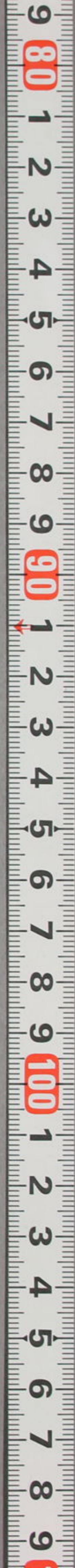


女大子



3552

益

貝原先生

大學



仁 智 禮 義 信



田舎の
餉
てい



子又を苗



多

[illegible][illegible]

8

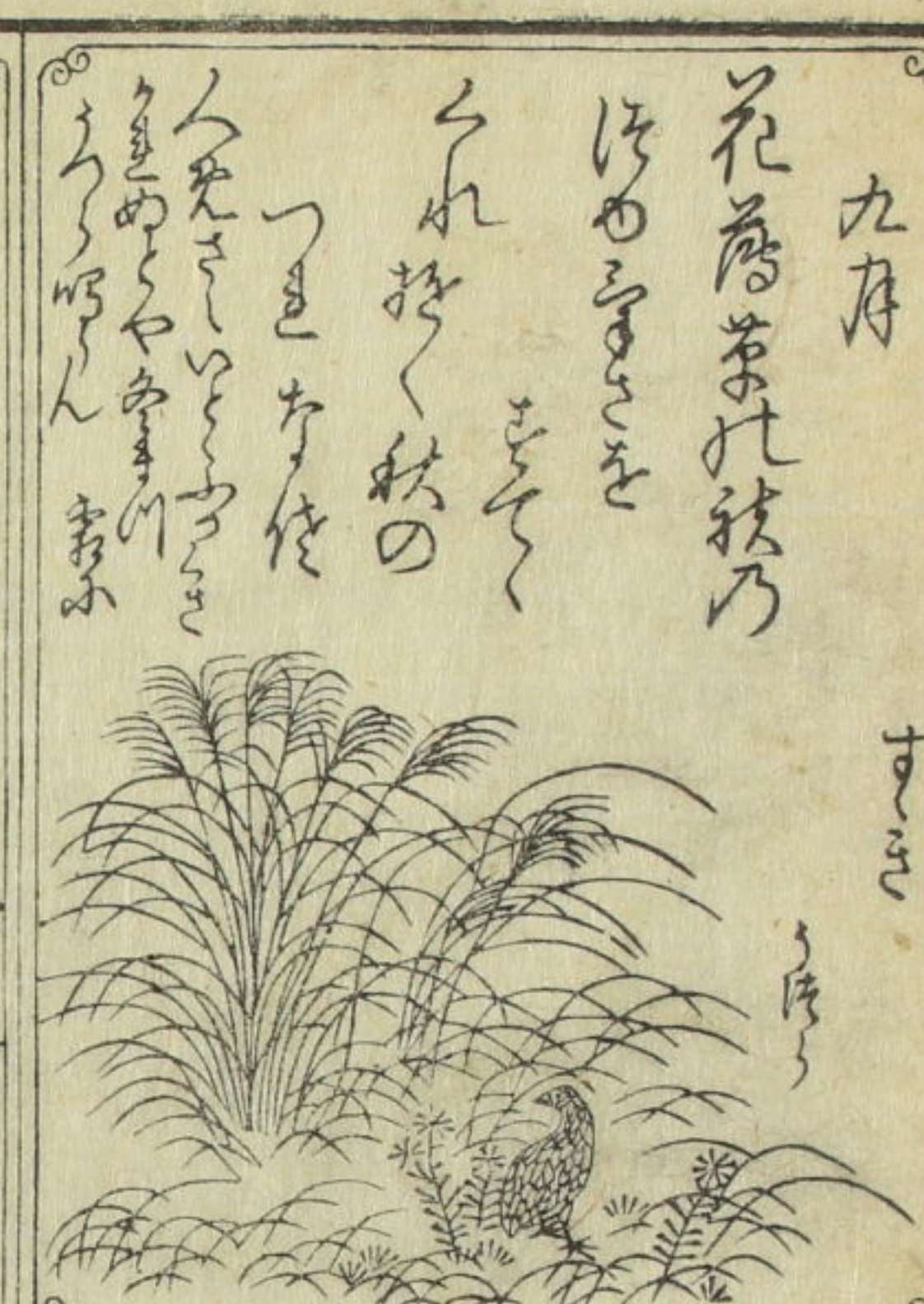
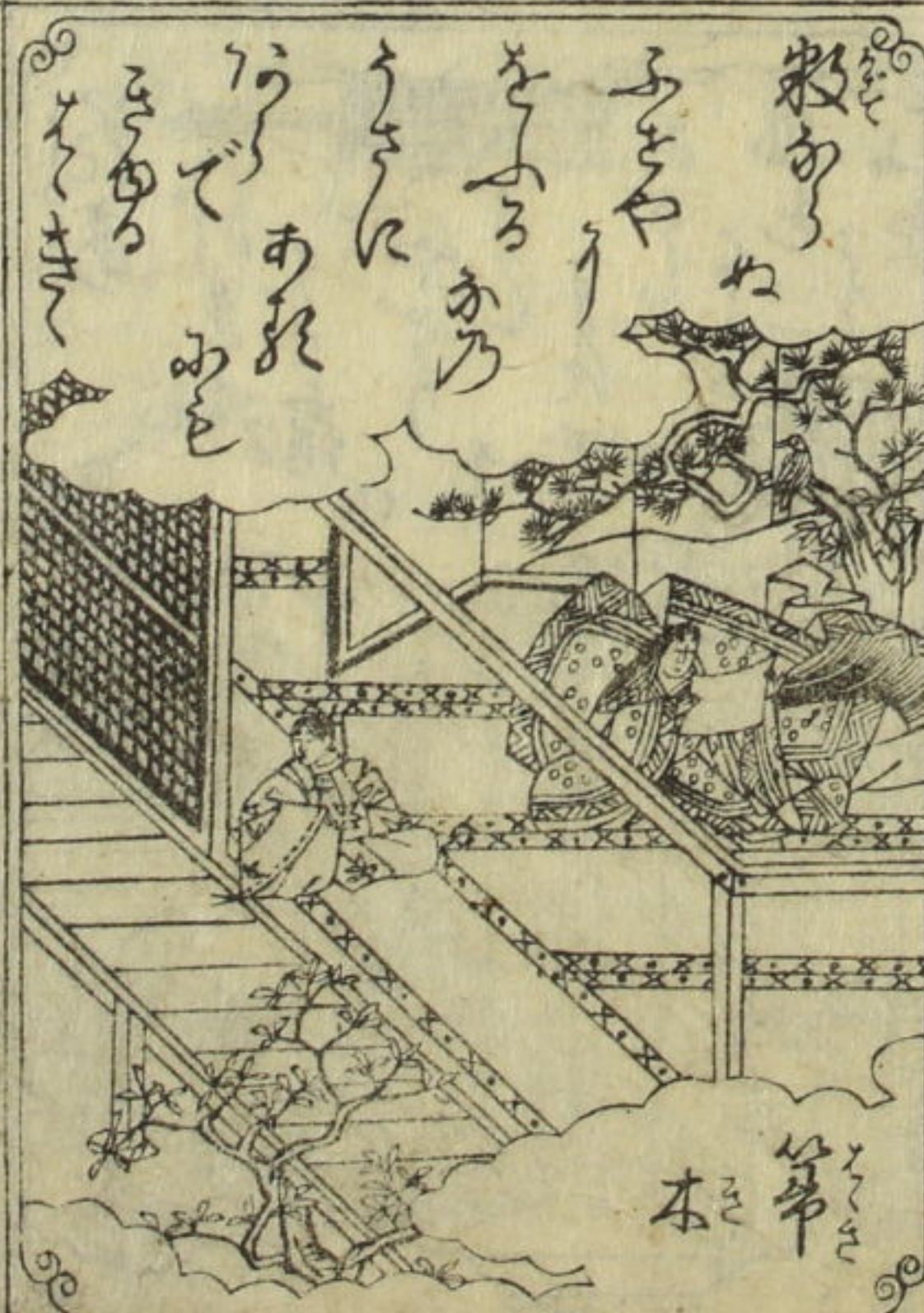
雲井坂雨
持中納言のまゝ
むくぬの情
うきあひな
ふきのまつり
んくさの
ふは
ちと
しと

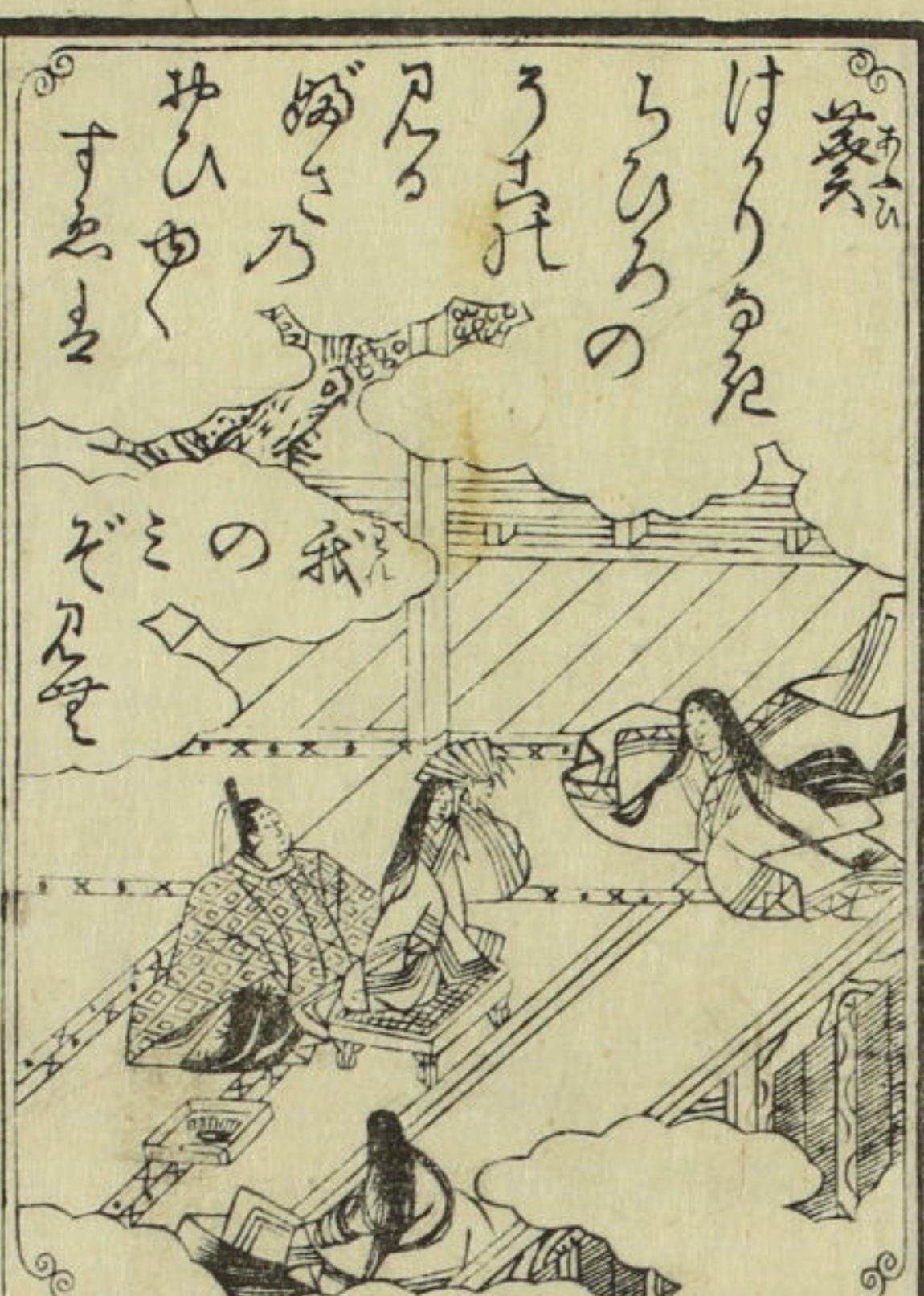
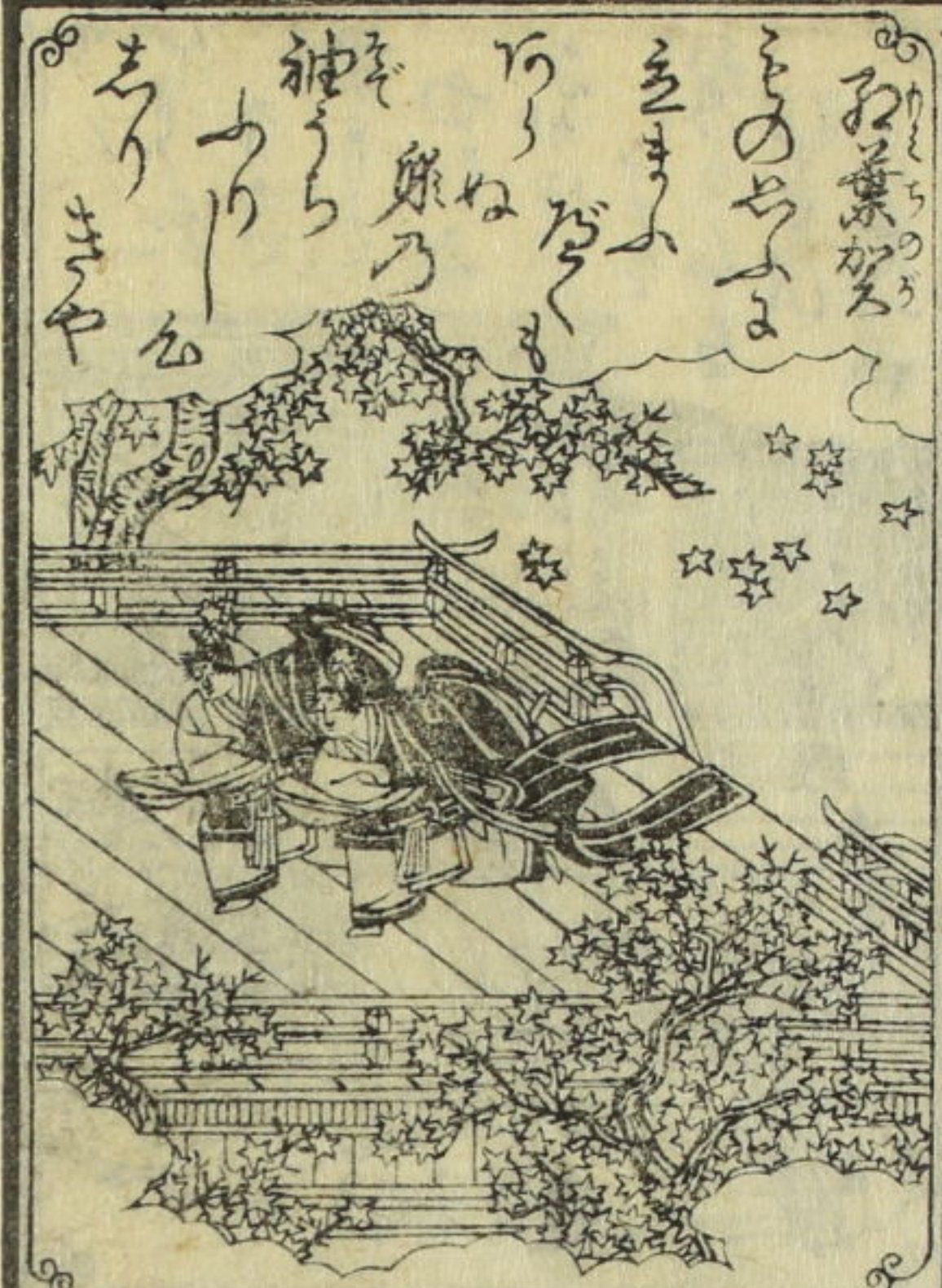
ち

惠橋の人
お中納言小倉
実在
おわろくおえ
きんけい
ふし
あゝあゝ
うたかた

子

源氏物語





A woodblock print illustration from a Japanese book. It depicts a man in traditional robes sitting on a wooden veranda, looking out over a landscape. The landscape features a body of water with a small boat, a rocky shore with a waterfall, and a large, gnarled tree on the right. The title '風色松' (Fukushō) is written in the upper right corner.

玉の
 神さび
 の
 女
 乙女

花
 音

玉
 花
 音

花
 音

花
 音

花
 音

花
 音

花
 音

A woodblock illustration from a Chinese manuscript. It depicts two figures, likely scholars or officials, seated on a raised wooden platform. The figure on the left is wearing a dark robe and a black cap, and is focused on writing with a brush on a large scroll. The figure on the right is also in traditional dress, including a black cap and a robe with circular patterns, and is holding a small object, possibly a fan or a writing brush. The platform is surrounded by a low railing. To the right of the platform, a large, gnarled tree trunk with sparse leaves is visible. The background is filled with stylized clouds. The entire scene is rendered in a traditional woodblock print style with black ink on a light background.

横笛
いこがえ
あふみの
うしろめ
つとまの

あふみの
うしろめ
つとまの
いこがえ
あふみの

あふみの
うしろめ
つとまの
いこがえ
あふみの

あふみの
うしろめ
つとまの
いこがえ
あふみの

あふみの
うしろめ
つとまの
いこがえ
あふみの

あふみの
うしろめ
つとまの
いこがえ
あふみの

あふみの
うしろめ
つとまの
いこがえ
あふみの

あふみの
うしろめ
つとまの
いこがえ
あふみの

橋姫



男子おとこも親おや
乃すなは教しむるをせり
すなは父ちち母はは
親おやをあはれて慕ほむ
育そだつとるを夫その



家より必氣
 臨みくまう疎
 まよふ又る男は
 可なりれど難
 六男と恨

中 熟くすむ
 終はけ 逃 出さず
 恥と 曝に 女子は
 母家 刻を 記す
 謂ふて 男史を

上右と下左も文字を
 縄と結びて垂しとほふも
 流石に文字をほつた文
 もふ書八條と多きれが
 うかぬめいりうれを
 やは 大空のふとて
 早七のふとて 手と名
 づけ 弘法大師はうり
 けり 吉成の太刀つり
 めり たりいろはな
 ねは けり けり けり
 あり いまをふとて
 金このふとて 金
 見ゆるふとて 乃
 をとつたのふとて 二
 しろふとて あつた
 かなといふのは



猶もるといふに
 心はまゝ女に
 強しは眼を
 見ゆ人と思
 しは句は抱いひ

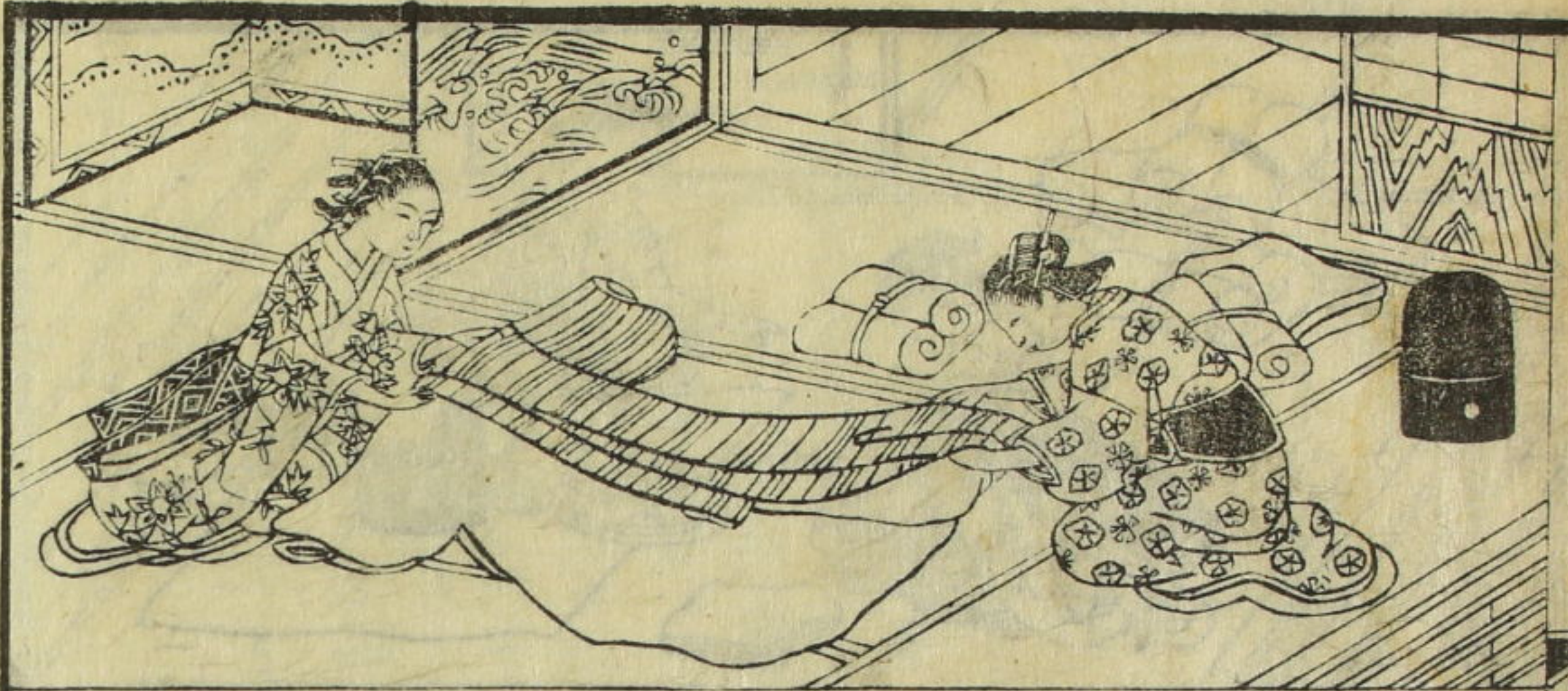
さうに口を
 先立人と
 家身は
 詩人
 奥の女



一女子の難所
 一女子の難所

う神めひよりい女子才一
 りとてあれがまぢやとて同
 とくく書下世間よりぬ六
 小ち取て家縁をおてら
 わすてのさうあつたといふ
 人ありけりひく神めひ
 女を重男なりともわいあぐ
 さみふもつておしむ
 女王も人の后にさう
 ありありありよりあひ
 々々々書にんくこれぞ
 をふくけさる女をいと飛
 うくさるゝ神めひに目をあむ
 月夜にさうめひされが奇を
 とあつたといふとあるまへ
 衣倉屋のこけれ才一にさる
 ものをさげばそまうとさる
 は

男おとこ女めのおとと正ただしく
 とう修そ初はつよも藏くらへ
 をを親おやとと氏し見み守まも
 夢ゆめへへんん古いにし一はの
 禮れいはは男おとこ女め々々席せきと



あくすく〜とがり今
 時の氏家といはれ
 法と知りてけ親
 と龍めく名と様
 親兄あり居を



わく〜一生身と
 空す所ありに
 惜ふ事〜わびや
 女と父母乃命を
 媒物とよれ



交らに親ずと小
学ふもいふあり
後と失ふも公を
金石のふくみ
して家とあふ

縫針のそと、糸いぼし、
 りんと志す種も、祓常
 の製しよりあるをふ
 登りゆるうの大具と
 帝九針をはる程とい
 又礼記のうちに針い細
 てちんたとありわが形
 大己貴神 大陶紙女
 活玉依非に色ひあつ時
 と父母索影んとく績
 麻を織はねり針鉤と
 う神人の短裳い
 係て明貝系乃まなく
 糸よりこめに輪完
 より越茅渚山をな
 之流ふよ苗々とわれど
 神代すでに針績麻
 わりたるや皇

一婦人おまの家の
をわが家とするが
をわが家とするが
をわが家とするが
をわが家とするが
をわが家とするが



雄史乃家貧婦
 かやも夫と怒へん
 ところをわきにゆへ
 之れ家れ貧へ家
 仕合ふん函故あやふ

衣帛とのづつうの物乃
 尉いのり斗とといふけあうりは
 むゝ般はんの付つ玉たまと戸とおじ
 多おほりふれあうて惡王あくおうなり
 きればおののと刑な罰ばつの具ぐ
 をはくうんとく先大に
 尉斗いのりとの大我おほのつううの
 物をほろりつゝある者
 これをどゞむきば手
 すれつちやけふれつちを
 見くまくみぬぬ此こ姫ひめ已やくくもに
 乞こををんでてゝゝひたされ
 ますまののここりりけけつつのの
 是こののままをを也やととなり
 ままれれどももななりり衣い着ち
 ををててははににひひ
 多おほくく必かな封ふうをを送いささも
 つつひひぢぢ

おのひ一度嫁てい
 其家と出されと女
 の乃とすゝると女
 聖人乃割と女
 女の乃とすゝると女

草履く女のみさご乃
 ひろくをろあまー
 草履いさをわむし
 二月にうてへあまうり
 と皮を剥とり行とそ
 その糸を割きむ皮の厚
 とろろをほく脱て糸
 糸のうくうろのとり
 てこれを煮くさうて
 布に編むわが糸く
 はれも東のりぐを
 才一とく又蒲麻のさ
 いとくよの草のし
 ぬくにつるりのりけ
 うと麻ぐとて糸
 世々の着にするあ
 はる何とそ糸
 つるなり



去れ時一里れ
 恥なうあまの娘人ふ
 七とくてとと七
 何孝一よの娘に服さる
 女と去へー二とら

子あに女へ去へー
 是書とあの子孫
 相續のふれと
 御と女婦人乃公
 正しくゆ儀よ人

布ぬのは南都なんとと分わくとるに
 よりちふ良みづか縹布ひょうふといふ華
 を擇えらんでやり織オリきくはな
 灰湯あかゆやく考こて本もと向むかと搗う
 洗わし淨じやうで曝ひかりさくさぬと
 本布もとふといふそのまゝゆらある
 ちふ本もとといふちふり布ふ乃
 出でる布ふ多おほく加賀かよりお
 ると八海はつかいといふまゝゆめへ
 濤たう華けハ縹ひょうの布ふ襷たすふこの布
 をちかく用もちひし人ひとも名
 とひき多おほく縹ひょうハ土ちにのまゝ
 より出でる丹波たんぱよりまづ
 せむとちあふよりいさうふ
 下しもふ縹布ひょうふハ越後えちごより出で
 おぢちふといふわ
 よりも出でる上かみに上かみ成
 ちふ縹布ひょうふ

して振あるがくが
さうはとも同姓の子
とあるは
子なるは去る及んで



三よの謡龍かんらんなれど
 さふ四よの格かんなまふ
 くれむとれみふらん病
 病わがふの患やまひと疾われ有
 ばさるふふ多ふとくくらま

本緯のこころありけり
 染れ代りしとまれり
 十八年ほどともうす
 のうて一人之河國小澤者
 有人見く崑崙島の人
 へつりしそれを地乃
 中に実ありとれとさ
 一むそのうち中世より
 その様うせくあ文録
 中へ緯をきこてあま
 孫くなりしとて入を
 いま布子とりしと
 布に糸あつとてその
 かり本緯今も接津に
 丹波之海にそめく
 うつるを玉糸緯
 出来り
 かり

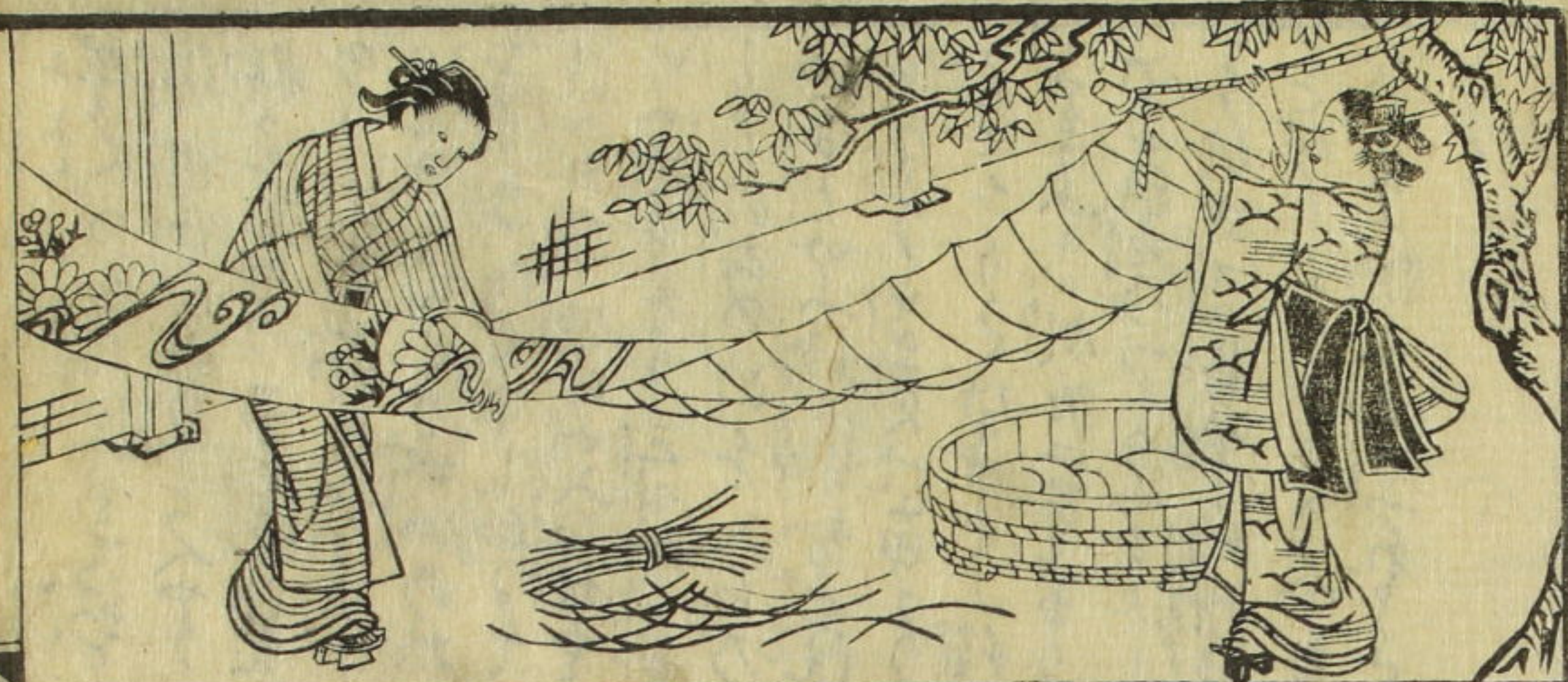
室へ男れを怪
 するもの通緯の
 むれ物夕れ見し
 と願へる緯の
 勤へる業と急な



室へ男れを怪
 するもの通緯の
 むれ物夕れ見し
 と願へる緯の
 勤へる業と急な



一葉ふまゝ
 閑くそ乃下知に
 清くへ一丈間とある
 心一と音よ何と
 幽言疎々何と



毎れかりまゝ後
 立想と記の思ふ
 眠海と想得る
 その心よ送へる
 女と夫とをりて

婦人の白糸をうして被と
 綿帽子よりありてうす
 糊うぎんあり乃をうし免
 のううをうし免のうし
 いものりあが水仙乃根
 とまりひくべうあうて
 ほろふ一條のい入にぬを
 つる等なり三時おき等
 とりあの新を入に乃
 けふといふ浄ち家智恵院
 流なりふ貴れおきり
 庭とありけいなり一
 ときふおれを二百をり
 けふのた乃つるあう
 とは成尺長常被帽子
 をうしあうなり今を
 びらり帽子あうれ
 あう
 わり

天へん ぬくも吏
 に送ひくもれ
 と吏 ぬくも
 一見公女公女乃
 見えぬれぬぬ
 見えぬれぬぬ



吏乃親親よ後
 憎まれぬ男姑の
 へい角く家
 為小まふ
 膝ぐえすれぬ
 膝ぐえすれぬ

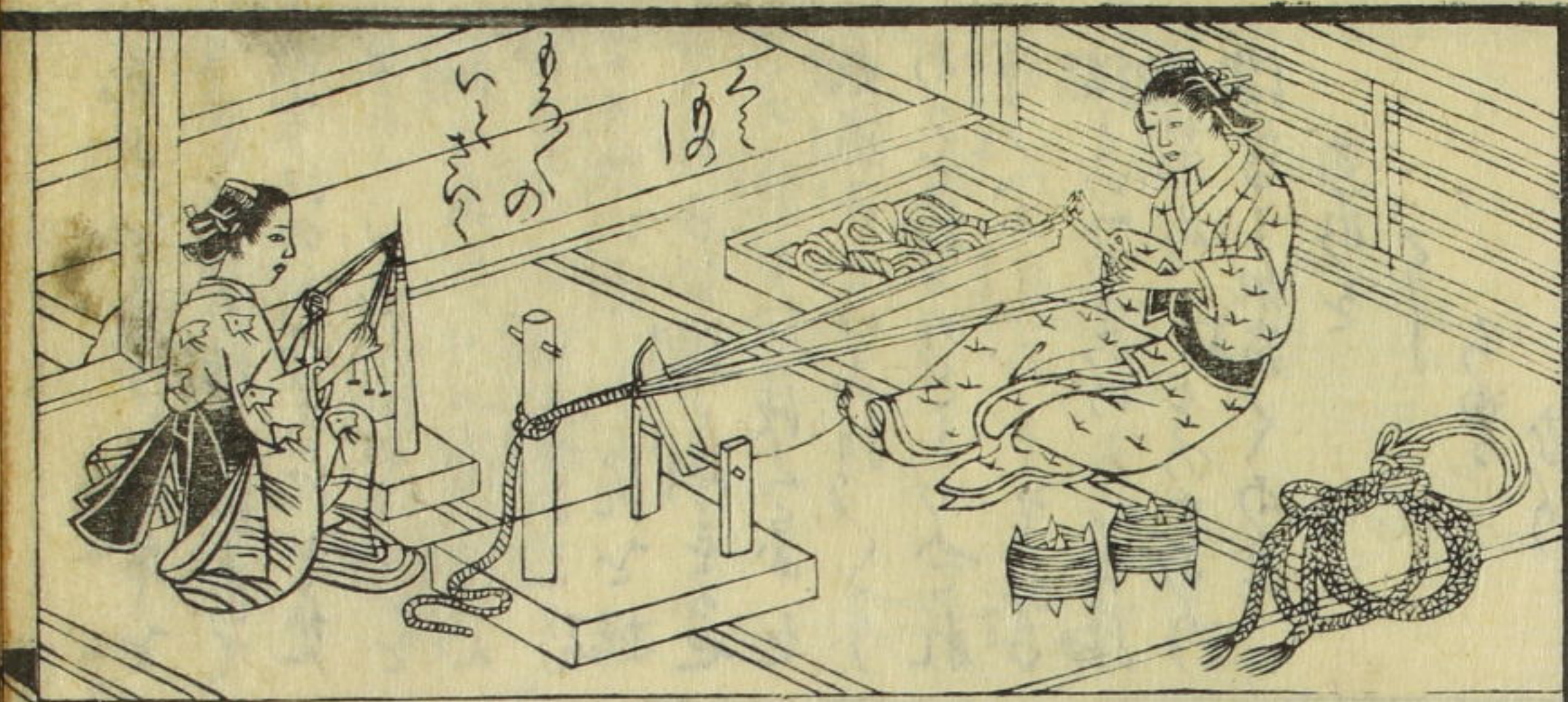
会珠屋へ来た坂に多し
 つのい難本をりてはる
 或は吾提樹の末ありひ
 水晶珠のりい婦人
 りつ八箇のうらまは
 黒檀の顆より水精をり
 これをすね珠乃穀珠を
 つりり山伏の用るふは
 顆にま角ありそれより
 なるといふを年々百万
 遍の松珠といふありり
 金珠れりる八類帳を
 やむろの源ありと又
 は百八の敷七十二候り
 十二月や二十四とそ人
 てはくよりといふを古今
 系始といふ抄のう海りの
 書にあり

忍ぶ女泣き
 却る吏に疎き
 見限る物なり
 多少不義を有
 といふとわを
 といふとわを



雅しと疎へ疎と
 睡より好むと先替
 山と後よまの心
 一時偃休あり
 氣をと暴く

凡縁とりつく諸品成
 つらふあれを組屋といふ
 徑出物の縁多くある
 由よりその糸とお交
 こ糸をよむそのやうに
 皮れ礫研みゆるや
 松皮といふ又松皮といふ
 ついといふのふひく
 家本あれらけしめく
 樹の皮をほくさる
 むるやういふさる
 高底といふさる
 ついあやまりさる
 又いふさる
 いなりさる
 うさる
 らあさる
 うのさる

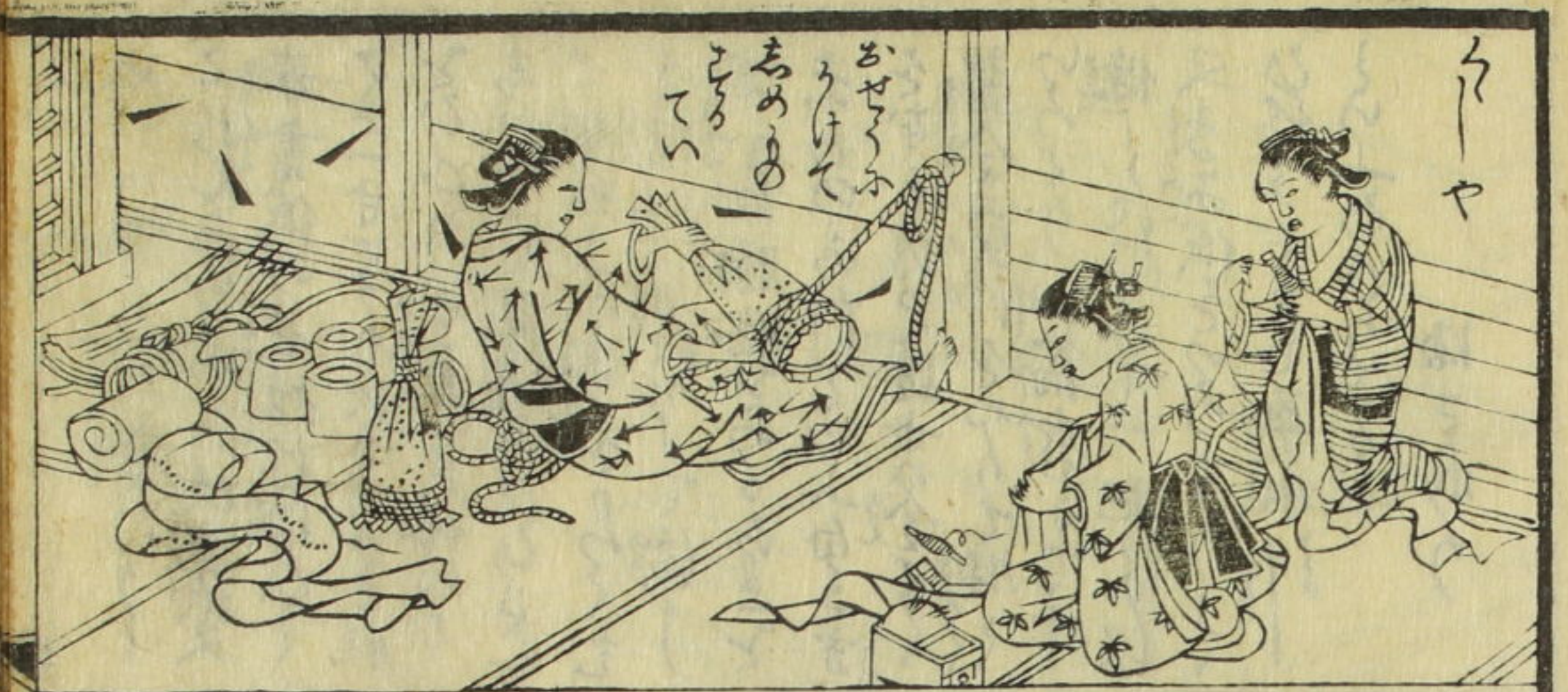


一息吐いたらぎく
 に逢ひ叛れ
 一言吐くと怪人多く
 丁度うへへ人
 御事偽と云へう

人の縁とす
 らん心よ修人
 傳へん
 つよ新より親れた
 間知くなら家

凡糸とりつゝ絹帛と
 うくあつち結く紋を
 のちにのぞひるにそえ
 目うけはつて後その糸を
 解とれいありふあれ紋に
 ありその糸賣の皮ひ
 て鹿子目結く野うさぎ也
 その紋をてはくふを
 熱麻子といふ所なり
 ありと村のものとつこれ
 婦人の業ふして麻子
 結といふものありす
 結とつてその糸を
 潔き糸をくわいて
 あれを
 なる

肉と海に
 一女ありにん遣
 一と身と堅信
 得と獲かへ一紙ハ
 早く起るを速く



寝室のいれど
 一と身と堅信
 得と獲かへ一紙ハ
 早く起るを速く
 肉と海に
 一女ありにん遣
 一と身と堅信
 得と獲かへ一紙ハ
 早く起るを速く

水引の婦人の賣り
 奉書紙の長短に
 一すぢり長一尺
 二すぢり長一尺
 三すぢり長一尺
 四すぢり長一尺
 五すぢり長一尺
 六すぢり長一尺
 七すぢり長一尺
 八すぢり長一尺
 九すぢり長一尺
 十すぢり長一尺

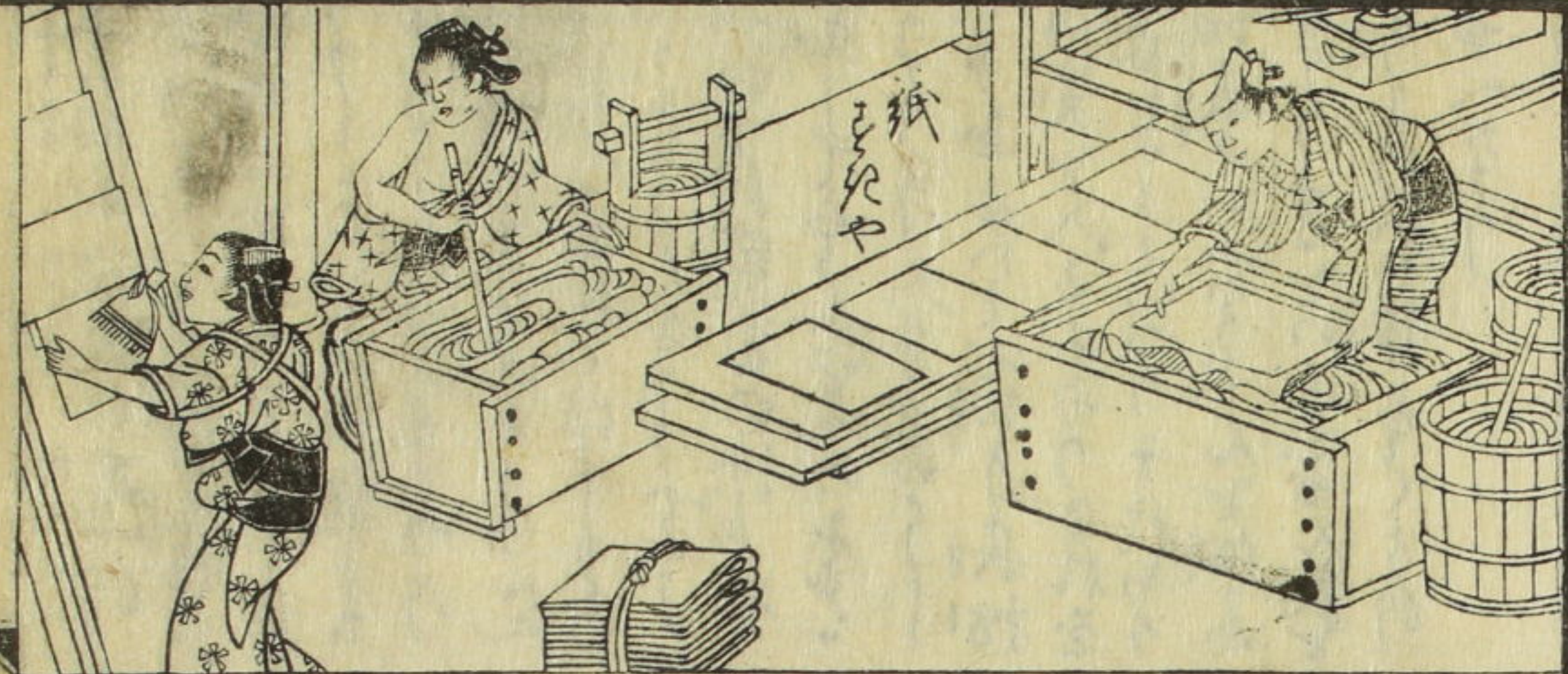
赤茶酒が
 多く衣へ
 着た小歌
 王が乃
 事と見聴へ



文寺と都
 人かお
 多おへ
 乃へ

紙を濃業の楮をたき
 英蜀葵のけをおわして
 あふの目となくほり
 瀝澤をとりてめきた第
 へくゆき竹を煮とりて
 これをすくむ板にりて
 めとくはくをさく
 それくふるんん串の
 いづるふく加賀の奉書
 越後の烏子を才一と
 枚系紙多徳紙岩城串
 徳若中極紙太き小
 そかふふあ中ふり
 さぬくゆかりお
 雲紙玉盤紙濃紙切
 厚やうなやう又長
 むし紙
 ちくちくちくちく

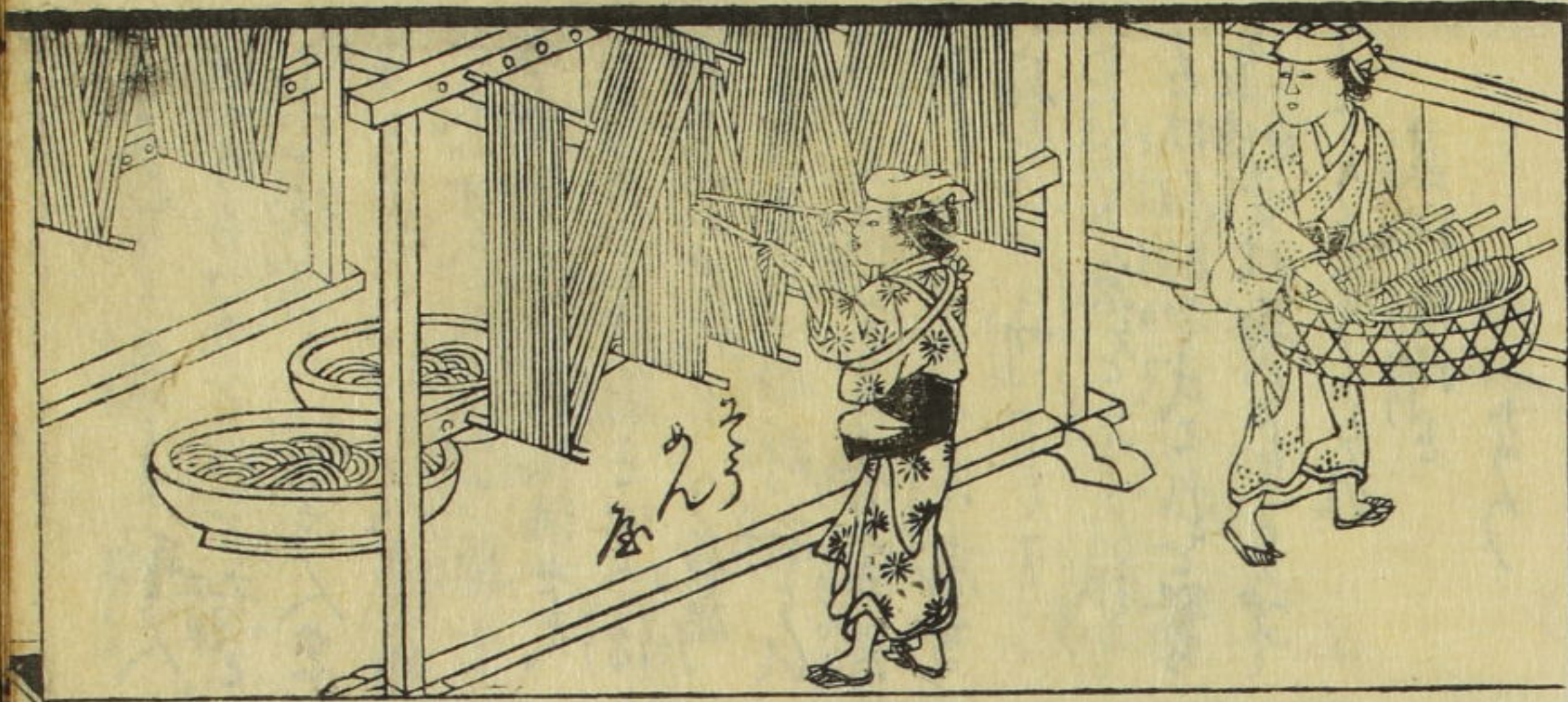
一巫覡がどのよ
 建ひ神佛と
 活一迎付振ふ
 新ふへん只人
 の勅とくすか



時の禰にとも
 祢仏いちふ酒し
 一人の業と成てい
 それ家とく保
 へ業乃乃元

索麵も沸込の名がけ
 ありといふも湯の糸と
 湯所二條にありといふ
 一これと地索麵とを
 りうろにいつとさうろ
 湯所は日本のさうろに
 過化を不化といふも
 こゝろをさうろといふ
 ちやうど薩富のけを
 糸といふもさうろの
 まりりといふもさうろ
 ちやうどめいそ切り呉
 の実をさうろといふも
 糸といふもさうろの
 切麦といふもさうろ
 さうろといふもさうろ
 おといふもさうろの
 ちやうど

熱く放つて
 家と破る
 僕もて費と化
 海へ衣被飲
 合ふも男



公派り
 用く者
 一糸
 親友
 為の

庵をむく一舞を舞人
 法よりあつてこれを五明と
 中へ括庵を位する人若
 用るもの之庵の尺りとい
 一尺一寸今一尺之要也
 一の干要のふへ能を交
 の用をを括庵といふ僧
 のりの中膳なり長崎
 ありあると朝鮮庵とい
 うと相店ふあり骨事骨
 石のゆうせんを庵を
 庵を法する所ありとい
 あれも家をとえとい根を
 名城殿助少氏これと勢
 所新堂れ庵の目なりとい
 まうてといとい
 某阿弥柳といふなり

うち
 お解る物
 ちうづ
 と付へる男女の
 ちうて
 海と国すべしや
 ちうあり
 なる用有とてあ
 かとこ
 男に文をど海に



なる
 一ヶ月れむ衣
 乃深心く括括
 なる目くさめ
 なるにすめ

賤の女乃^しも^もも^も都のを
 言ふまゝ上^{あづ}栗田^り白
 川の^し花^は中^なこれ^は白石^は
 村^{むら}乃^は人^{ひと}農作^{のうさく}のい^はと^はぬ^は
 石^{いし}工^{こう}を^はあ^は用^{もち}に^はあ^はう^は
 これ^はと^は研^{けん}と^はり^は用^{もち}を^は是^{こゝ}と
 里^{さと}女^をを^はさ^はう^はあ^はせ^は
 り^はて^はう^はる^はを^はか^はう^は女^をの^は
 り^はて^はう^はる^はを^はか^はう^は女^をの^は
 あ^はう^はる^はを^はか^はう^は女^をの^は
 遊^{あそ}ぶ^はあ^はう^はる^はを^はか^はう^は女^をの^は
 う^はる^はに^はあ^はう^はる^はを^はか^はう^は女^をの^は
 り^はて^はう^はる^はを^はか^はう^は女^をの^は
 ち^はう^はり^は古^{ふる}風^{ふう}の^は有^あに^は
 され^はざ^はう^はの^はや^は

小
米
花

すなはて正月
向ふもみえん
乃方と勤く次に
家親のあつと
そへしとの味

黒本やこの小矢背大
不韌なれこし人々入る
本と代てはら^あ宝と^あ申
にほろり^{さうり}軍方に代る本を
つと^み生勢を^{かきと}焼く^くまぐ
あそう^あはあ^あろろ^あ本といふ
それと^あ焼く^ある^ああ^あの^あわく
より^あに^あ垣^ああ^あも^あを^ああ^あ病
あ^ある^あ人^あこ^あね^あ入^ある^あや^あせ^あの^ああ
あ^あれ^ああ^あれ^あかり^あその^あ黒^あ本^あ代
は^あろ^あろ^あ村^あの^ああ^あろ^あろ^あろ^あ
い^あろ^あろ^あ牛^ああ^あに^ああ^あく^あく^あ
あ^ああ^あろ^あろ^あろ^あろ^あろ^あろ^あろ^あ
あ^あん^あろ^あろ^あ生^ああ^あつ^あろ^あろ^あれ^あろ^あ
さ^あの^あろ^あろ^あし^あた^ああ^あろ^あろ^あろ^あろ^あ
古^あ風^あの^あ向^あに^あ
大^あ原^あの^ああ^あろ^あろ^あろ^あろ^あろ^あろ^あ
小^あ柳^ああ^あ本^あ

母と何あへも仍いづこ
 産みは松人むすこ
 勝おろあすべし次つぎ
 一女と我親の家おや
 とは續つぎに男おとこ始はじ乃なり



父と継母へいわ
 親も嫁と大
 切に心ひ孝行を
 為へ嫁して後
 親の家より



半も希なるべ
 増く此の家へ大
 形と使を妻へ
 有間と名へて又
 家親のふれた紙

修やごり入やめ讀よめるよめを
 一しも下べ新あま海うみ多たや
 つつふふととしし方はうるる本ほん
 月げつ辛しん勞らうとと思しふふ

勤つとむと女の作法さくふ
 たり男おとこ姑こ乃のねにこめ
 衣きものと進食ぬひと調とめへ
 吏きうとと仕つかと衣きものを
 冬ふゆ席しきと掃はき子こと



月洗と洗常ふ
 家此内へ入
 根ふ卵へ出へ
 一下女とつ子
 心洗目め今



云甲斐ふ下
 福る留へ思く
 留無心奸女
 物ふと福外吏
 乃と男姑姨と

蘇門答臘の島に馬明菩薩の
 の後ありといふも若き時
 西漢氏の國にありし
 蘇連と名ふるはよりひ
 るふしあふふりて生
 ずるとして如きとて
 て尋ねてきてせそと
 あづさすむにかりとを
 ひていふとていふす
 蘇連の幸甚とていふ
 姑にうつるま
 昨日に城郭を來て城郭
 遍身綺羅者不是素人
 つる城郭のまゝいり
 てこれとていふとある
 つてとていふとけい
 りとありとていふと
 且てのちとていふと
 いふとていふと

かぐ家心ふ合ぬ
 事わさむ根り
 燈すきくうと
 却る君れぬと
 思へり婦人



智恵なくして
 と伝ていふ根
 出来あへえ来
 史の家いれ人
 くれむ根と報と



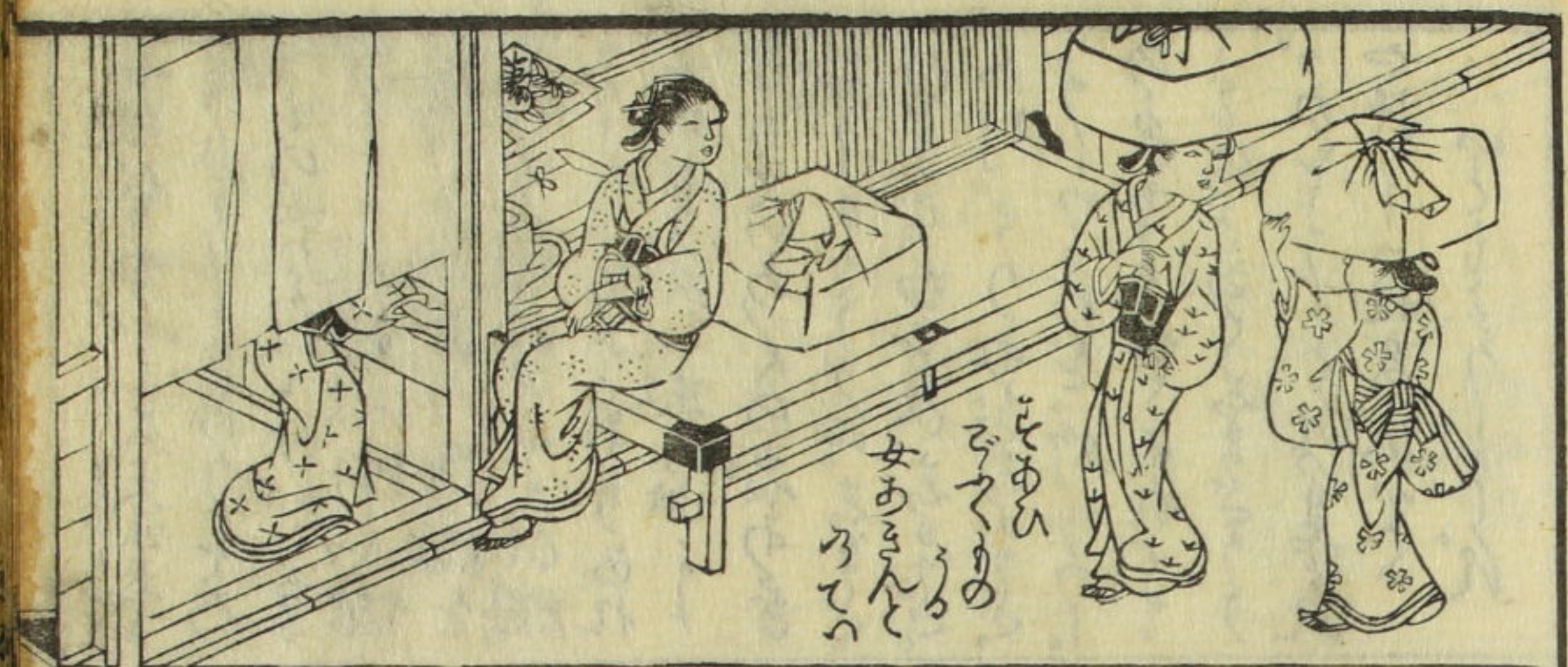
家と泥に基と
 ぐらものゝあづ
 又早と者と使
 氣合ふと多
 それとあつと多



ぐれむ約く
 後と多
 家の内物や
 ぬふ事わむ
 云ぬと後と

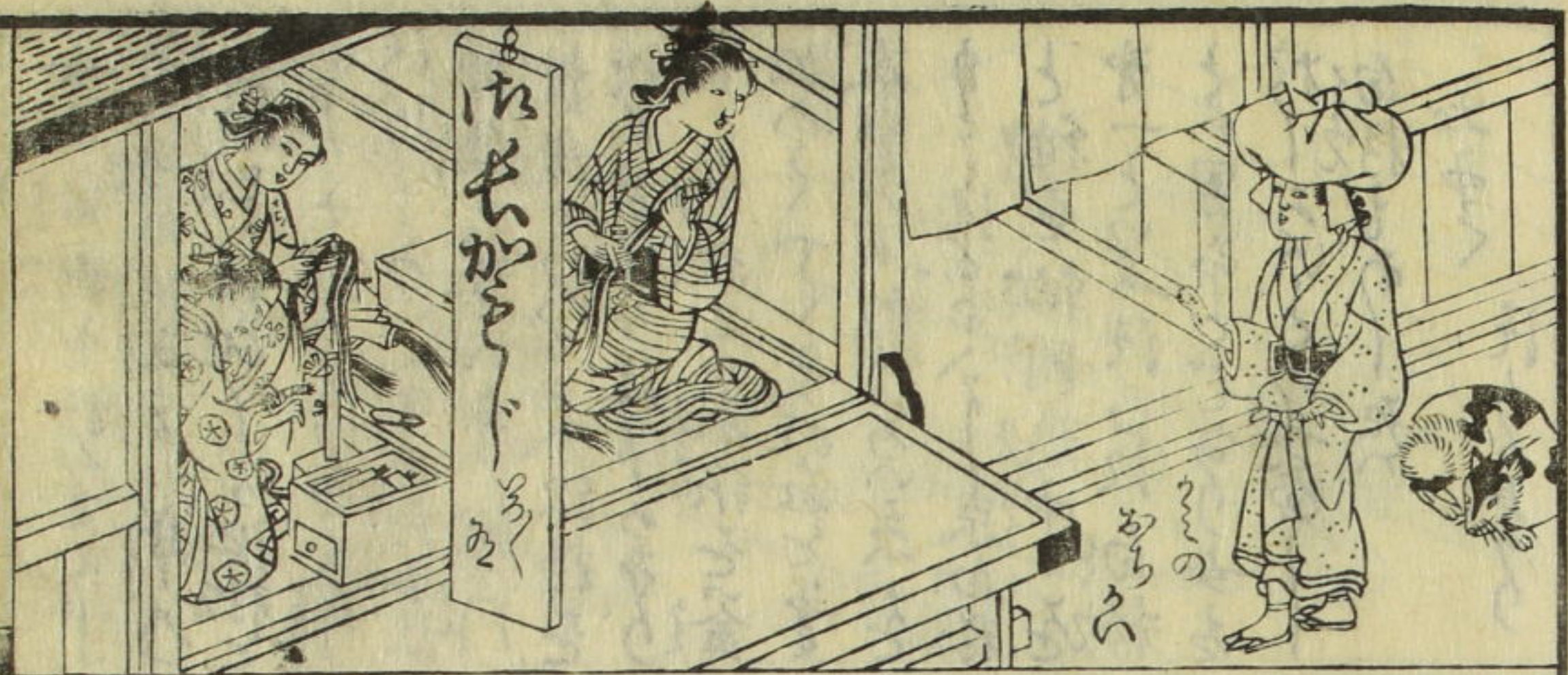
高する女を駈婦といふ
 けがれあつてゐる女あり
 牙痛といふ女あり
 だ—すあひとてあつ
 抱きこみ小房物のあつ
 りして積屋又も積屋へ付
 くる人のめと人あつて高
 する女を男にさうさう
 しんやきくうううあつ
 色あ—又もさうあつて
 ひうあつてあつてあつ
 よりあつてあつてあつ
 されどもあつてあつてあ
 抱女に—や—さうさ
 女を男にさうさうあつ
 なるべ—男と相あつて
 ああれどい—あつてあ
 そのなり

ぶふあふ日
 願戒く改まへ
 中を智恵も
 浅也—の疾
 とあつて女に陰性



なり陰へあつて
 暗—所以女に男
 耳はふ—あつて
 目あつてあつて
 と—あつて

女の髪中より天武天皇
よりそとまりりそ乃
うこの女はこれさげや
だー天照大神八坂
腰の五百箇乃降統を
もく髪髪をひび
をまひあすありあれ
そのせうえ末のせー
かりていつくの衣あ
藤しまううぐぬあま
ひうごむきひあま
玉門よりわきまうご
ふりうわぎ竹のつ
のるなりやわれども
いふあてあまうご
がわきうーとひのま
やほーの女風や
やううー



又人の郷なと
ととも無れわ
中あふより男と
成べよ事よと
知れ村もあり

ひとと怨む怨む世
わひ人と怨む
うくわく身独え
を思ふ人よ
味もきてこれ家

女の白粉を洗うるに
 ぬぐふの付まゝ帝乃
 后姐巳といひ一が粉を
 かきりと洗ふといふる所
 けりしうのまが粉は
 持統天皇六年沙門
 親成といふ人粉を
 洗くまゝがけどめあり
 りと白粉あり水粉を金
 にへてやとそれとを
 本やりのあゝる系を
 りと洗ふ由へり京白粉
 と稱を袖園越中を
 才一といふに白粉
 との男あといふる女を
 おろいといふあゝ
 白粉もあゝた
 ちめく
 洗うるなり



才の仇とて
 と知れぬは
 なく浅き
 育ちたき
 潮よく習ふ

才の仇とて
 と知れぬは
 なく浅き
 育ちたき
 潮よく習ふ

女の無脂を洗ふるあら
 られも姐已とておれ
 て面をうきくくさる
 りて燕脂を名とせり
 頼紅の呉の孫和やう人
 鄧夫人といふ義女とて
 ありて水の明の如き
 顔をうきくくさる
 りて燕脂を名とせり
 頼紅の呉の孫和やう人
 鄧夫人といふ義女とて
 ありて水の明の如き
 顔をうきくくさる
 りて燕脂を名とせり

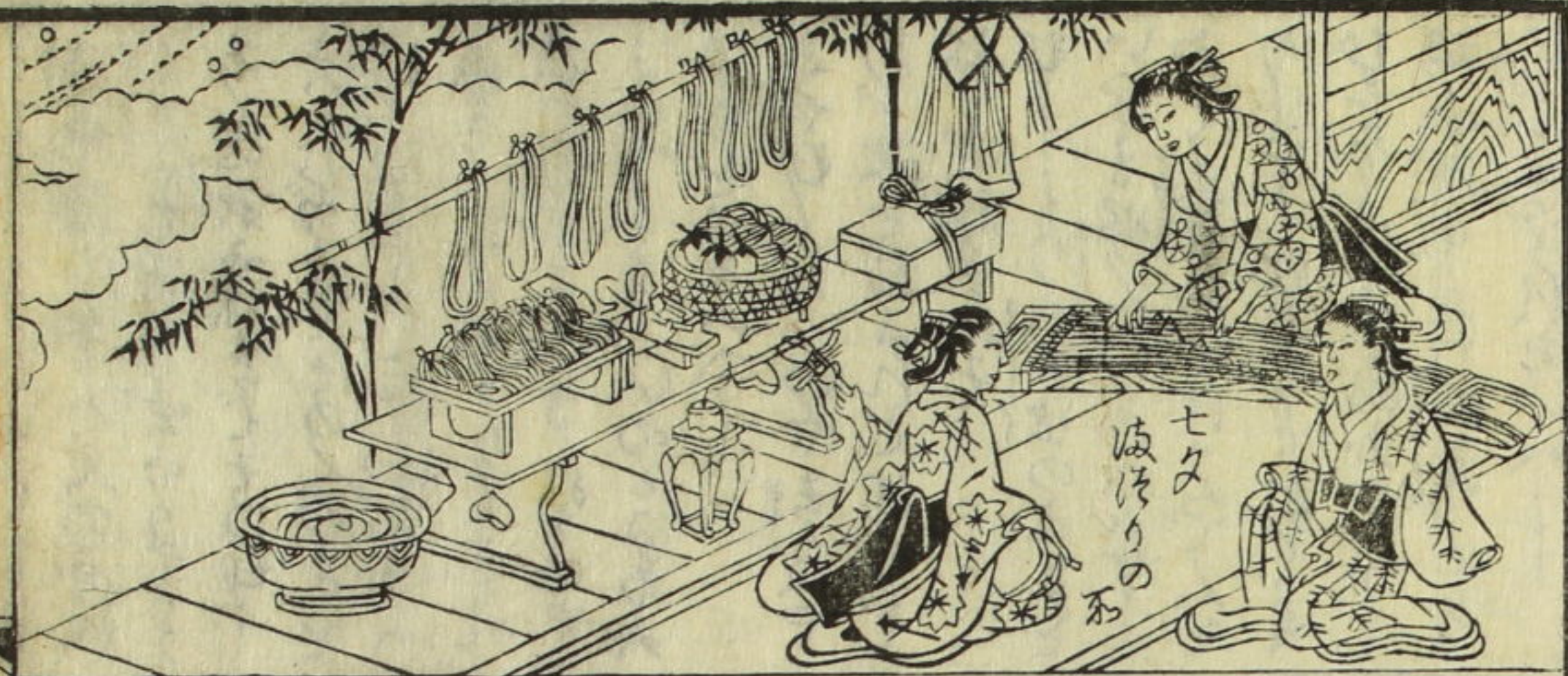
下に師ひくと
 いふ是も男の
 乙女に
 家あるふふ
 へつてくさる

五倍子鉄線に和して歯
 を磨くあとの効あら
 東夷の風やうと文に
 歯を磨くあとの効あら
 東夷の風やうと文に
 歯を磨くあとの効あら
 東夷の風やうと文に

夫と先立ふ
 と後し我
 事に能く
 不強とおる

七夕まつりの昔桂陽城
 武丁といふ若七月七日乃秋
 織女銀河をさへりて牽牛
 ありとたそれにひひと
 くらとあやまりはるては
 くの尻が葉をさそへく
 まつとをえり蘭やのさり
 そのまうり汁分ハ茶葉の葉
 を一と凡果をみ向うる物
 ぬあはのさく星はねと
 けいておむ竹を七尺み
 さらくたちりくそその
 さらふふと七さぐねひ
 乃糸くくあつかりま
 香はくたねとさくそ
 ありさちちよ
 庭の角へいそむる
 くのまをさみけく
 のさ乃まつ風

をのづら生れど
 けすふくぐ連
 そひく家うら
 ねとるべ
 大に條と雅
 どの



時ふりく刻
 又あけたり
 あれんふれとな
 うあよ今代の
 人か子にむ後乃

[illegible][illegible]

ますぐ海となりまに波とるすり 胎月
 うりやうくのぞくとし ○懐妊の女へ身
 もらひ一なり 男持わ ちんぷ産
 逆産 横産 経産のうむひあはれあて
 も病を經産さふぐの魚へん 基ひ
 有りふふばありのあし身 肝 膽 助 寸
 しばそ作とそとふ刀さく 産あまて
 こち狐そとふひたなとさうぐら動に
 れのうあまバ種との不仁と産人とお
 さるる方瓜とれふふあそく 滅亡にまろ
 うむとれがの身けりかむるのわり
 火粒とれだ未産とてけあけ大ある未
 わざあ来るに隣はあてふけのじいん
 や我家よあつとほばしむじそのかうそ
 みはあれぬおのきとまどろくは大勢え
 におするふゆなるに産物とつひど

強く氣取れぬが、胎と云ふより産
 却と云ふ女は氣取れぬが、胎と云ふより産
 と云ふべし。胎内はわが子男女交合と
 云ふべし。子の獲の所よりいふべし。胎乃
 胎人の後、疾病と云ふ信は産の計乃
 胎あり。胎の交合のあり。胎の計乃
 胎あり。胎の交合のあり。胎の計乃
 胎あり。胎の交合のあり。胎の計乃

その
 身のもれあすの縁一生に盡る事
 定まる所之惟く身と老をうんぬんと
 せよと云ふ人々懐歎し○懷妊初めの
 月を力と知て重たき物と持とうと母それ
 かつらふとてあへず身もろわれば
 おもひなり月と老とをうんぬんと云ふあり
 うそと云ふ懐妊のころはあはれぬ人
 多し幸か不幸かと生ぐさるゝものぞ
 大妻と食しては二月めまでくまなく
 こころをいひ辛おわがしらめを金
 けず二月め六半むり物よりひする
 る代迄三月めいんと来わす春食の時言
 とあづを穀米奥席のきこひと食させ
 四月めいふそ外とていひ難とわく花
 湯とわきて衣類のあらうとて溜まつて
 銭とらへるもなけれ乾おといひませと

[illegible]



紀友別



董永

母さんおれは中へ行ってきふへに
中へ入れぬ。おれは。何とて目とまう
なり。又きてあゝ。いふ。お車と
いふ。又とりて。田んぼをたて
や。いふ。う。おれ。いふ。あゝ。あれり。
いふ。

[illegible]

病わづらひ醫師は重く甘素のむせ
を世民するめく膝土産よ未と飲べ乳
又言ふてと睡すすありやぐべがれり
なりあるそこのこれわに病わづらひ
飲べ乳乳を別な病もきそ介膠
こあふと久くまうり或わたりぬ
なりがほと痛煩とりす
わやしらん灯なるの油がほ又やあら
二るより重くは六把をあく次す
すとひにこそとゆふめ作は斗む
横は瘡ものあつゝあぶと有登城者
耳お沙荷すなひ産湯喰おふ
また要時の焼蛇乃す法は何れにが
すく云傳るる事あるべ○胞衣桶二三
ち桶三つ是年中けうちせたと今わかれど
その分ばあふも大屋家みいさ

唐失人

人のつはまをさうとめい長さんんと
つひく年やひく万のちよじえさ
はげれづひふれをさめぬあゝと
牙とさうり。さうりさうりつてね
やういなり。多時長さんんぬ
○おいて
てはま
さうん

[illegible]

揚香ようかう 御うらやうひろきこのへ
 ひろの文をとりずみの井と
 山中へりなれどもとて宮に
 あつりやうやう又の金と
 りんすゝとあゝををひさん
 けりなれりやうとやうをを



すこゝかゝつたけにうらなひ
どうりりんとせし虎をかたわとせ
おげありぞ花々々又まゝに虎はの
あんをきぬれづかなくもあやう
かりきも、まゝいふまゝのむづ
海とみづのうらなひ

A black and white illustration of a man and a woman on a boat. The man is standing and looking towards the right, while the woman is seated next to him, also looking right. The boat has a simple structure with a railing. In the background, there are stylized waves and a small structure on the shore.

[illegible]

五元を少銀をうけずればかゝる
 たちもくさむきびしく云ふは其
 れをなしてをねをばかしく増ひ
 けり金子ありと云ふやうに云ふに
 ようにひきてうりあつたはうり
 母はあつたりと云ふもくはばか

當分^{とうぶん}傳^{つた}りかきとて元^{もと}從^{したが}ひて知^して擔^かる
 の獨^{ひとり}になする言^{こと}うれ^れの百^{ひゃく}重^{じゆう}く云^いふ是^{こゝろ}
 若^もしせうれ^れはゆ^ゆん^んを^を重^{じゆう}く^く双^{さう}後^ごを^を終^{しゆう}
 子^こ母^ぼを^をせ^せれ^れ方^{かた}附^つり衣^え来^き下^{くだ}ど^どと云^いふ

○春後の書生は文太の病とて百日
のる交令^{ふうけい}を^{やま}病^{やま}わ^はば^は二^は三^はも

いふべしを和物立湯わも替浴に入るその
女の虚実はろくを疑也うたがひ也なり男男女女乃

虚実^{ちやう}は仍^{ちやう}くともするも中^{ちやう}之^{ちやう}に赴^{ちやう}くぐさるも力^{ちやう}はそれとあるを^{ちやう}便^{ちやう}と去^{ちやう}れり是も

鳥が糖のまじりとを生るの人は妬くなまふ
あまぐりて新とすあまぐりばまのあまに奉

小海^{こかい}に^て懐^{くわい}き^て下^{した}なる^{なり}日^ひを^をま^まむ^むき^きう^うは^はは^は又^{また}
 病^{びやう}う^うそ^そわ^わあ^あか^かう^うれ^れた^たを^をと^とめ^めて^てう^うか^かは^は又^{また}

何れもなまじりて一日を毎日を宵に過す
 悔ふ事なき方々此は保貴おとろふは

小兒生肌膏

持也父母の血を^{うん}入るは父の精
 や母の血と^{うん}はむと^{うん}は男の子なる母の
 血と^{うん}は父の精と^{うん}はむと^{うん}は女の子なるもの

自免の如令うて嚴うさするは時勢の
 一月之殊案のどく二月は推免のどく

三月より男女のくちりつれに四月より乃
 すぐそむひ五月より又強ひて六月

まゝに摘みし七月初のすゞみち
のほがひも是乃のびうと月耳めとみみ竈かまどの

うろのぬゝの通^{うろ}下八月あゝ^{たすの}鑑を食
里九月あゝと^そ状^{その}を^そ外^そと^そん^そど十月

[illegible]

の熱いさもあつても風の熱あつた
 蒂わさびの煮ちうぎや、或ある十月にまゐりて

[illegible]A horizontal strip of aged, yellowed paper, likely a flyleaf or endpaper, showing signs of wear and discoloration. The paper has a mottled texture with various shades of cream and light brown, and some small dark spots or foxing are visible. The edges are slightly irregular and worn.

朱子曰末の天女代の人七才
 のとたまたまうさう此者ぞ白り
 附あやぐさうが母をわひせし
 それをすのみか母ともいふと云
 いけむとてきんうをそめてそと
 が移るかにたりこれ母もわかば
 うちとてびう


A close-up photograph of a horizontal strip of aged, yellowish-brown paper or parchment. The surface shows signs of wear, including faint smudges and discoloration. A prominent dark, irregular tear runs along the bottom edge of the strip. The strip is set against a dark, textured background.

一、五香湯の丁子、本香、
 沉香、乳香、路、麝香、紅、加味、五香、
 麝香、連壳、路、本通、大黃、
 虚、中、巴、奴、桂、枝、乳、味、
 一日も半月もあつたらば、
 うゝ子、
 母乃乳、
 うめ、
 温、
 うす、
 うゝ、
 大、
 口、

はくぢう 又縁の法とてつとをぬおと
 若く竹篋と書し 志うれば竹篋
 うる色齒彫たるよりと此その法ハ
 軟う痛とてく 綏帯とつと齒を
 かとさうへ 児子の足の掌にうへ
 長うばうへ ちらぬやうふさばしその
 依るを麝香の態據とぬの紙のお
 かゆとてあてえつとて糸をてはく
 すれさうぬのれ水溜のぬぬやう
 ぬをへ 志めり川に入ぬとて病を
 志ぬにたかく 風起ぬ月んさへ
 志ぬの風俗とくさくさう
 うぬゆとひるせそのちほぶのさ
 とくさう 又志ぬとく井水とわ
 ぬとてぬぬ或はむぐ 川
 ぬとてぬぬ 湯とぬぬ

中元



A close-up photograph of a single, horizontal strip of aged, yellowish paper. The paper shows signs of wear, including creases, discoloration, and faint, illegible markings. The strip is set against a dark, textured background.

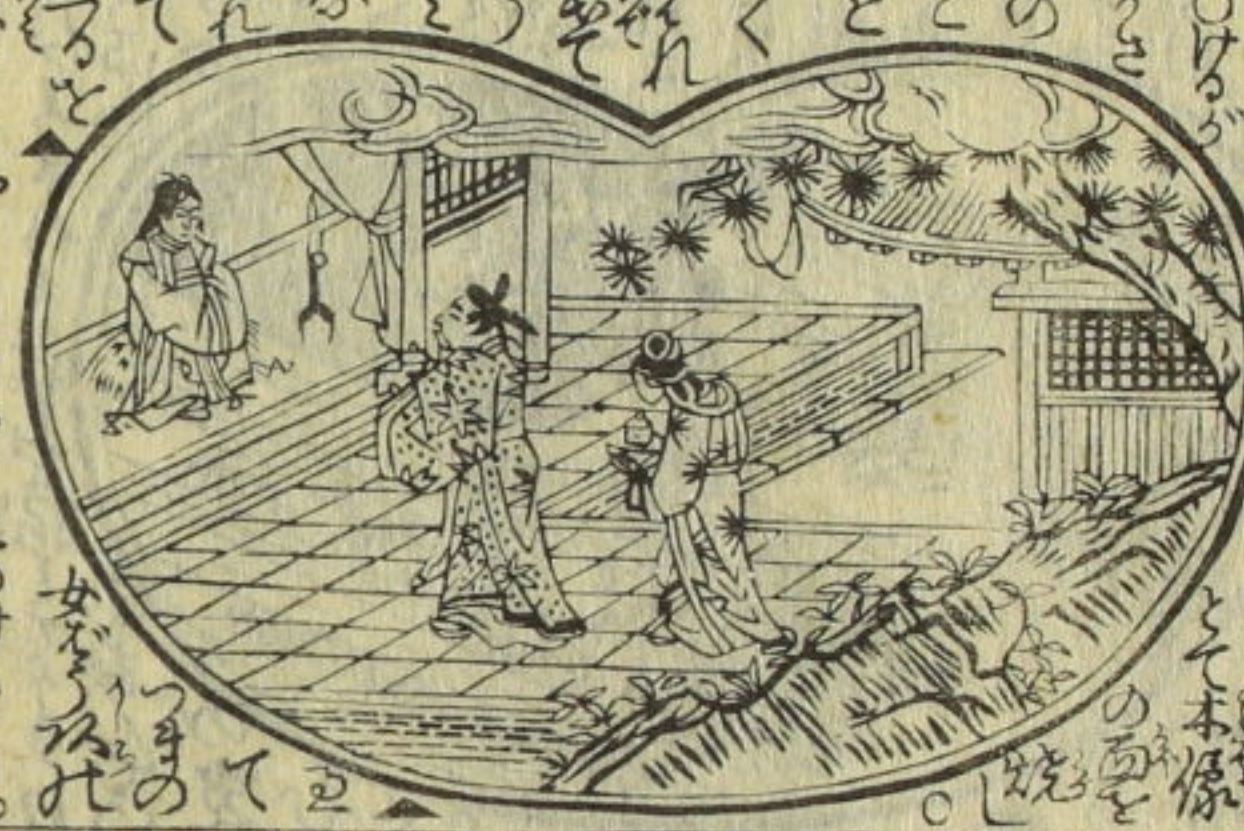
松本
月



A close-up photograph of a single, horizontal strip of aged, yellowish-brown paper. The paper shows signs of wear, including creases, discoloration, and a slightly irregular edge. It is set against a dark, textured background.

られりとあらす小児ハ秘のさうなり
 替^か中^{ちゆう}居^いきあられを候ふところ風の
 みとも多^{おほく}れりともすしとせめども
 ほめてたとの成させむにするる所さ
 とに只ゆるさるれどもんより後で
 ぼび小児湯^{こじやうとう}まのぼりゆて
 あくあもはらんずすそと六^{ろく}弱^{じやく}
 目のでよゆへり五^ご歳^{さい}六^{ろく}弱^{じやく}とりぬ
 らうゆとも修^{しゆ}感^{かん}胃^い一^{いつ}やに又
 の要^{よう}安^{あん}一^{いつ}やすひわくばさな流^{りゅう}火^か
 ねどと居^いべ一^{いつ}さ交^{かう}密^{みつ}といふるそ
 風邪^{ふうじゃ}まあるとわりふせ必^{かならず}然^{しか}る
 ともあせりあうれも油^{あぶら}引^ひきとる
 す早^{はや}めを悍^{たん}々散^{さん}て用^{もち}ひへ一の茶
 ハ外^{がい}威^い鼻^び塞^{さい}痰^{たん}嗽^{そう}発^{はつ}熱^{ねつ}等^{どう}にも
 用の人参^{じんじん}白^{びやく}朮^{じやく}茯苓^{ふくろう}桔^き梗^{けい}

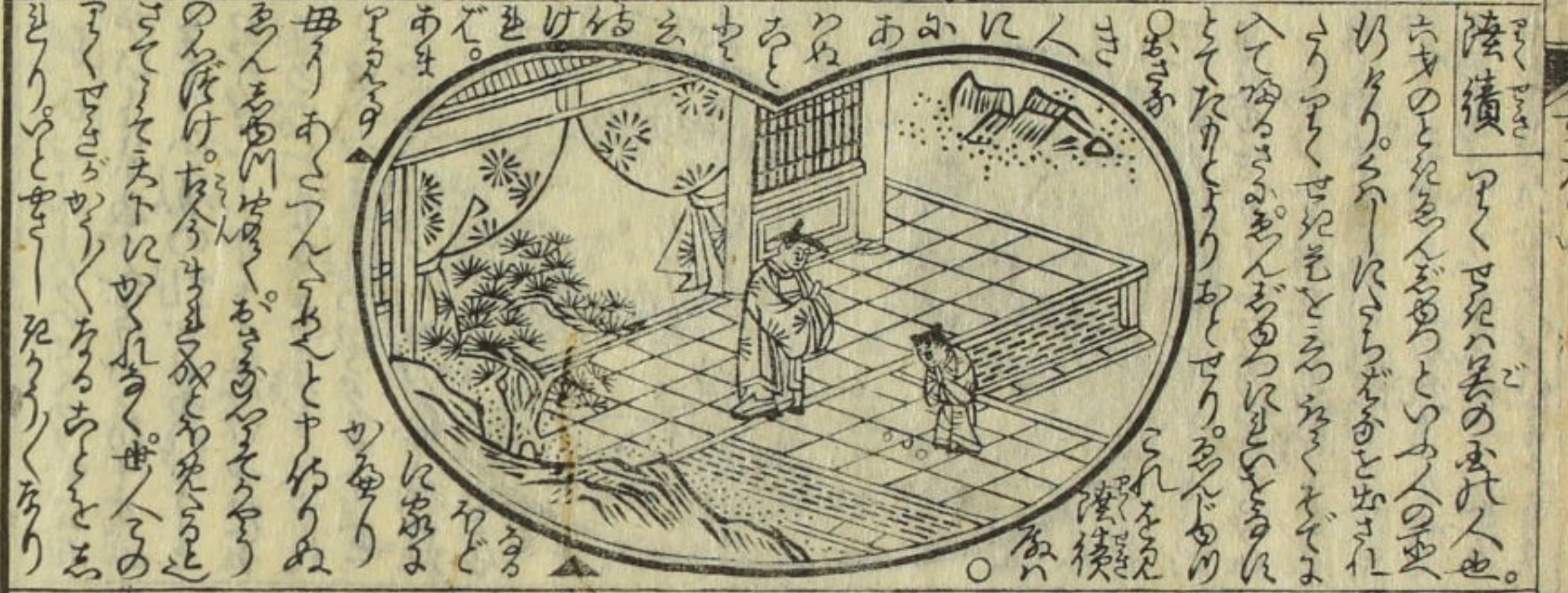
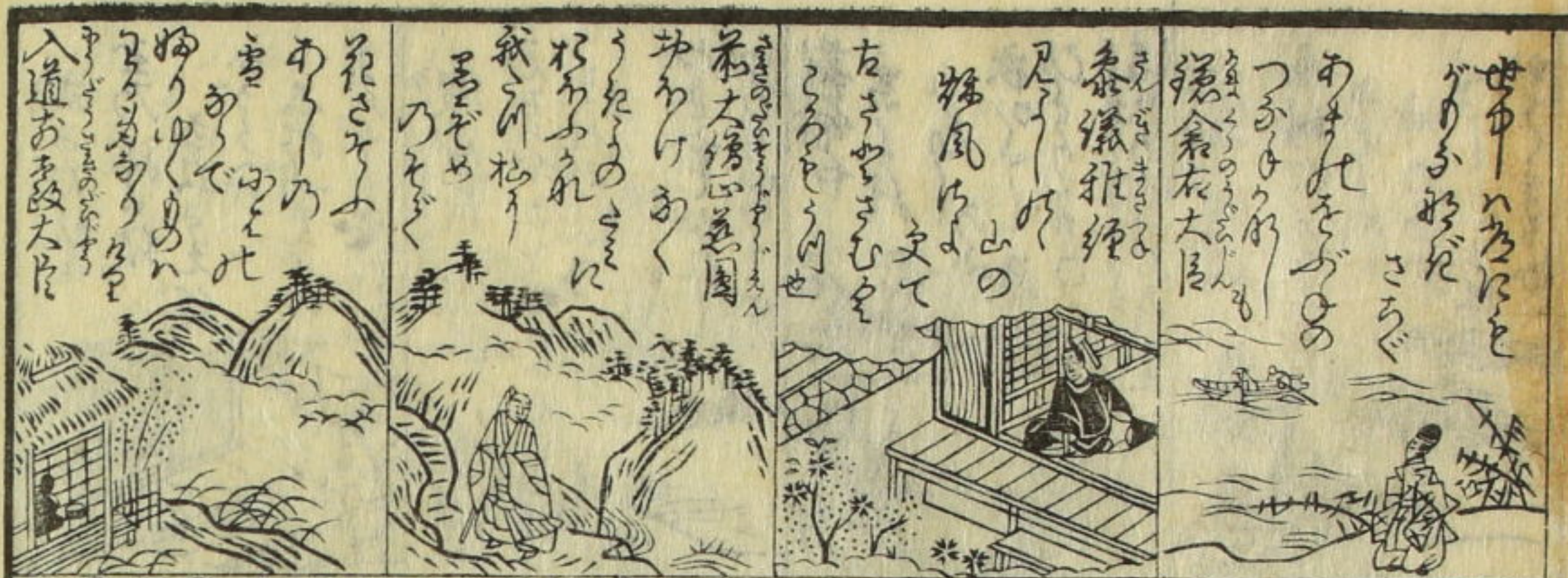
細幸 藤奇 天竺粉格 耳章也
 思ふまじく二十日めに後松平氏
 その三十二日めにえすのり 甥は三十二日
 とて本社氏神よりくするといふ
 けしきよくんははちぢぢぢぢぢぢぢ
 風多しあつてぬやうにふへー物と
 つるまふれを大事にうなるこの目
 よろしく多く病氣持ともあり
 けしむぢぢありかくて六十日ほど
 すまばく人減るまづく笑うるなり
 世々るるるるるるるるるるるる
 てうりせするるるるるるるるる
 なり二百日やどすれをわろくわ
 ららるるるるるるるるるるるる
 なるものなりとのとれう随分抱くぬ
 うあうあゆますれをなまよある

[illegible]

なりけり食物とすむるも候
乳粒とて丸米粒と少く用ゐるあり
是よりぬると先彌の上にて候
はゞ免さず候に堅弱と食
ひ一氣を付けし十歳まで候
ほまず七早々れを脾胃とてあひ
病ふ候又あまう久しく乳を用ゐ
るあり火焔食とて少しの齒乃
ちゆるその節とすべし食とて
とてあるの自強之又老にそはる
る表へて氣ありわづらひなほ
は月陰とて極び戲せむる時
氣血よくめづるものもよき
おひきに候と候りとて國の
家たて目のおんをぬいど
なりけり

[illegible]

中なることありのむべし
 人形法などよりとて氣成るは
 川柳のそのせ井戸とてや
 牛ふれわたり下せ犬猫とてや
 又寺持山號ある人形雲の中葉
 所のわたり必それれはことさだ
 小川のそとらるる病あるはさるる
 けるるより越たり富貴の家とて
 も田舎のそとらるるやうくは
 板りむうより名もいふく
 どりけらるるなり供に又あるも
 あり男といふなりとあけるを
 一かきと雛わとび放とて
 息あぐり男女のあはるは
 むべしとてふあぐり去れり



小児急用薬方

○小児生れ乳とのまじりうい葱白と
ききりて乳と少加せんト用べ

○小児生れ大小便通ぜざる婦人
は紙のわらひてその児の心とあは
のうとあひてその児の心とあは
のうとあひてその児の心とあは

○小児生れ啼きあはれとて
にぬりて灸一人参をさへト用べ

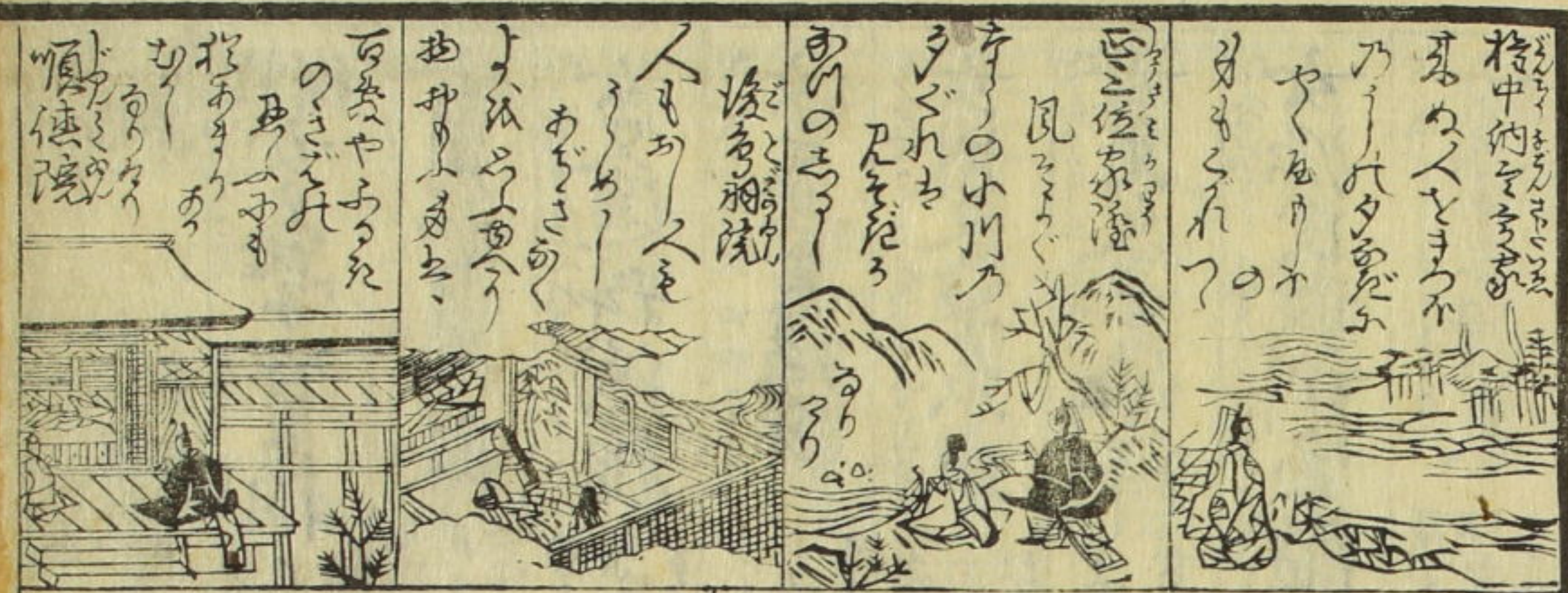
○小児の驚きに寝る床を小豆と敷き
ぬりてぬるトその驚きを癒す

○小児の軟癆ゆゑあはれとて
はてしなくそのあはれとて相麻と用ふ

○小児の丹毒を癒す鶏卵の白を煮
の粉とてさへぬるト

○小児の驚きに寝る床を小豆と敷き
ぬりてぬるトその驚きを癒す

○小児の驚きに寝る床を小豆と敷き
ぬりてぬるトその驚きを癒す



弘化五年戊申三月吉日

書林

日 武丁 小 林 新 玄 湯

大坂公衆病院 柏原清太郎

女中のえあひて益る書物目録

増補女大學寶箱 益る書物目録 一冊

女用智惠監 女用智惠監 二冊

女父選料紙箱 女父選料紙箱 一冊

女父其書後編 女父其書後編 一冊

女用文章系車 女用文章系車 一冊

女用文章傳帛 女用文章傳帛 一冊

女源氏教訓宝鑑 女源氏教訓宝鑑 一冊

女童子性来 女童子性来 一冊

女萬歲寶文庫 女萬歲寶文庫 一冊

倭百人一首玉拍 倭百人一首玉拍 一冊

女童子訓子代壽 女童子訓子代壽 一冊

万福百人一首 万福百人一首 一冊

万寶百人一首 万寶百人一首 一冊

聖泰百人一首 聖泰百人一首 一冊

万玉百人一首 万玉百人一首 一冊

美玉百人一首 美玉百人一首 一冊

伊勢物語 伊勢物語 二冊

万要伊勢物語 万要伊勢物語 一冊

女今川玉文庫 女今川玉文庫 一冊

女書札重寶記 女書札重寶記 一冊

女文章國典 女文章國典 一冊

女大學も本 女大學も本 一冊

貝曲浦北編 貝曲浦北編 二冊

琴曲唱歌集 琴曲唱歌集 一冊

日松月抄 日松月抄 一冊

寶玉百人一首 寶玉百人一首 一冊

万徳百人一首 万徳百人一首 一冊

百人一首 百人一首 一冊

後撰百人一首 後撰百人一首 一冊

和俗童子訓 和俗童子訓 一冊

日又常訓 日又常訓 一冊

六諭衍義大意 六諭衍義大意 一冊

和漢大綱

和漢大綱 十冊

畫同百富士

四冊

通寶志

通寶志 十冊

本朝画苑

五冊

直指寶

直指寶 十冊

揚子射法蓮抄

一冊

寶苑

寶苑 二冊

古今英華紙

五冊

帳綱目

帳綱目 二冊

古今盤野活

六冊

忘抄

忘抄 一冊

古今芳句冊

五冊

替古帳

替古帳 三冊

古今銘盡

三冊

清書帳

清書帳 三冊

播州巡覽名所國會

五冊

抄源氏

抄源氏 一冊

大坂より上り海巡り官道及び名所古蹟神社
佛堂ありく由來より一記一書と書
写し綴りたるものなり

和字心

和字心 二冊

難

世に希なる書
單方書を以て
以て書きたる
小兒一切の書
ひきつるもの
古き下巻古
る具刀を以て
めきつるもの
とてまじり
書きたるもの
和字の古蹟を
みたる書
たう和字
のりし紙
和漢名物四三
代と考へた今
出書名所の
和漢名物

和歌

和歌 五冊

小

和漢名物四三
代と考へた今
出書名所の
和漢名物

古今著

古今著 一冊

和

和漢名物四三
代と考へた今
出書名所の
和漢名物

萬歳大

萬歳大 一冊

和

和漢名物四三
代と考へた今
出書名所の
和漢名物

此經書

此經書 一冊

和

和漢名物四三
代と考へた今
出書名所の
和漢名物

〇右外

〇右外

和

和漢名物四三
代と考へた今
出書名所の
和漢名物

